

(声明) 映画「靖国」上映中止問題

私たちは表現の自由を守るため 緊急声明を発表します

日本在住の中国人監督が作った映画「靖国 YASUKUNI」に上映中止の動きが出ています。これは、自民党の国会議員が同映画の公開前に試写会を要求し、助成金の返還を求めるという国会質問に合わせて、右翼団体が上映予定館に妨害を加えるという状況のなかで起きている事態です。

私たちは、この事態が、憲法で保障する「表現の自由」を侵害する重要な問題だと考え、ここに緊急声明を発表するものです。

第一の問題は、稲田明美衆議院議員らが文化庁に圧力をかけ、国会議員向けの試写会まで開かせ、国会でも不当な発言を繰り返していることです。この映画に芸術文化振興基金から助成金が出ていることは、独立した審議機関が正当な手続きのもとに行ったことであって、一政治家が政治的イデオロギーをもってそれにいいがかりをつけることは、表現の自由を侵害するものです。助成金の返還まで求める国会質問をするに至っていますが、これを許せば、ある政治家が許す内容の作品にしか助成金は出せないということになってしまうではありませんか。

第二に問題なのは、文化庁の姿勢です。新聞報道によると、試写会の会場を文化庁がお膳立てしたり、助成金申請のために映画製作者が基金側に提出した交付要望書などの資料まで同議員に提供したとのことです。もし、これが事実なら、中立公平でなければならぬ文化庁のとるべき態度ではありません。基金の審査機関の自由を守り、映画鑑賞の機会を国民に保障することこそ、文化庁のとるべき態度ではありませんか。

第三の問題点は右翼団体の映画館などへの嫌がらせ、妨害を許していることです。不当な妨害行為は徹底的にやめさせるべきです。

私たちは、この助成を決めた芸術文化振興基金の関係者に敬意を表します。そして、映画製作関係者、映画館側が勇気をもってこの映画の上映を推進することを期待します。私たちもまた、その実現に協力を惜しまないものです。そして、私たちは芸術文化が政治に支配されず、自由で豊かに発展することを願うものです。

二〇〇八年四月五日

全日本リアリズム演劇会議

(東) 議長 ことやしひろし

(西) 議長 藤 沢 薫